

第6回近畿圏パーソントリップ調査について

1. 実施目的

近畿圏パーソントリップ調査は、「人が、どんな目的で、どこからどこへ、どんな交通手段を利用して、何時ごろに移動したか」という日常の動きを調査するものです。

2. 調査の概要

調査内容：世帯全員（5歳以上）の年齢・性別・住所・勤務先などと、指定された調査日における、すべての移動の出発・到着時間、交通手段、移動目的など

調査日：令和3年9月～11月（平日・休日各1日）

調査対象：近畿圏全域（2府4県）にお住まいの世帯を無作為に抽出し、世帯全員（5歳以上）を対象

配布数：468,786世帯（うち堺市15,940世帯）

有効回答数：98,577世帯（うち堺市3,324世帯）

調査主体：国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、京都市、大阪市、堺市、神戸市

3. 調査結果（堺市における人の動き）について

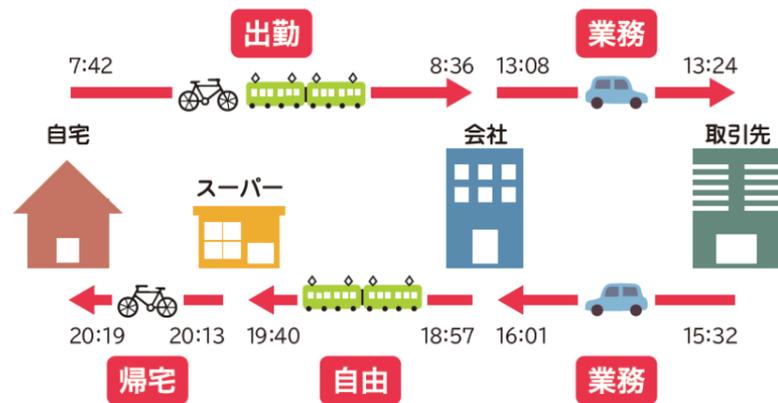
詳細は堺市ホームページにて掲載

<https://www.city.sakai.lg.jp/shisei/toshi/kotsuseisaku/kento/kanrencyosa/persontrip/pt731647.html>

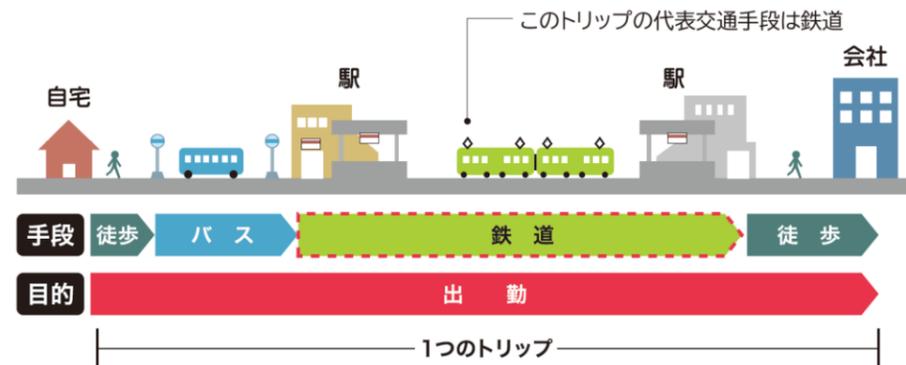
用語の説明

夜間人口	対象地域における居住人口です。
外出口	居住人口のうちある1日に外出した人口です。
トリップ	人がある目的をもって「ある地点」から「ある地点」へ移動する単位で、移動の目的が変わるごとに1つのトリップと数えます。
トリップエンド	1つのトリップにおける出発地と到着地をそれぞれ「トリップエンド」といいます。
トリップの目的	出勤・登校・自由・業務・帰宅に分けられます。自由は買物、食事、レクリエーション等の生活関連のトリップ。業務は打合せ・会議、販売・配達、作業、農作業等の仕事上のトリップです。
発生集中量	ある地域内に出発地または到着地を持つ人の移動の合計で、「トリップエンド」を集計したものです。
生成量	ある地区内に住んでいる人が1日に行うトリップの総数です。
生成原単位	ある地区内に住んでいる人が1日に行う平均のトリップ数です。
外出率	ある1日に外出した人数の全人口（夜間人口）に対する割合です。
交通手段分担率	ある交通手段のトリップ数の全交通手段のトリップ数に占める割合です。
代表交通手段	鉄道、バス、自動車、二輪(自動二輪車、原付、自転車)、徒歩、その他(飛行機や船等)があり、1つのトリップの中でいくつかの交通手段を用いている場合は主な交通手段を代表交通手段としています。 鉄道→バス→自動車→二輪(自動二輪車、原付、自転車)→徒歩の順で、最も優先順位の高いものとしています。(例：会社への出勤トリップ及び代表交通手段(この場合は鉄道))

人の1日の動きの例



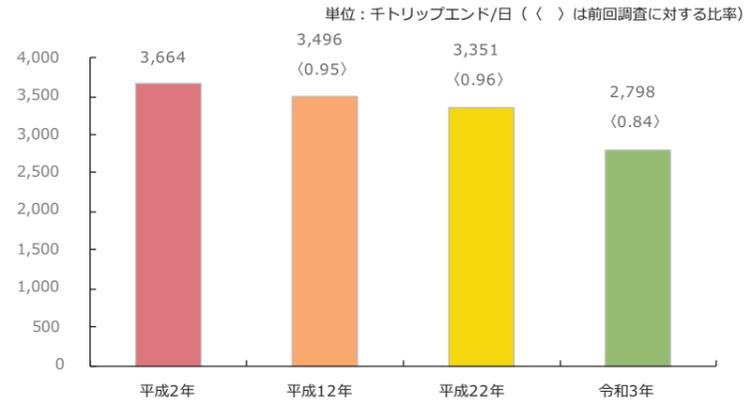
1つのトリップ及び代表交通手段の例



■ 堺市の人の動き (1/2)

1 平日の総トリップ数と1人当たりトリップ数の推移

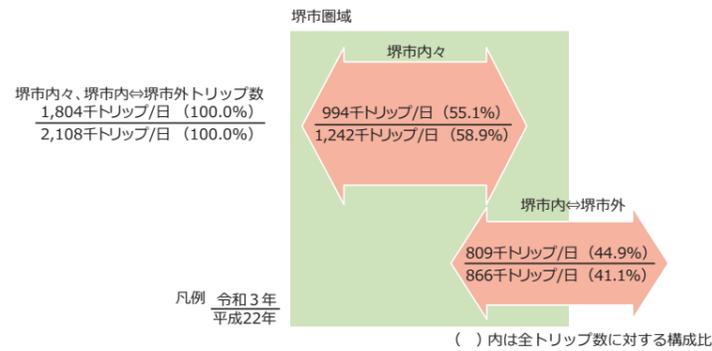
● 堺市の平日の総トリップ数（発生集中量）については、平成2年から平成22年にかけては微減でしたが、令和3年は平成22年に比べて約16%減少しています。



資料：第3～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図1 平日の発生集中量の推移（平成2年～令和3年）

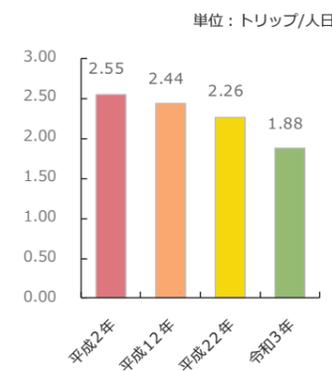
● 令和3年において、堺市を出発地あるいは到着地とするトリップは1,804千トリップ/日で、そのうちの約55%にあたる994千トリップ/日は出発地・到着地ともに堺市内です。



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図2 平日に堺市を発着する人の動き（平成22年～令和3年）

● 令和3年において、堺市に居住する人の平日1日あたりのトリップ数（生成原単位）は1.88トリップ/人日であり、平成2年から減少傾向が続いており、令和3年は平成22年に比べて大幅に減少しています。

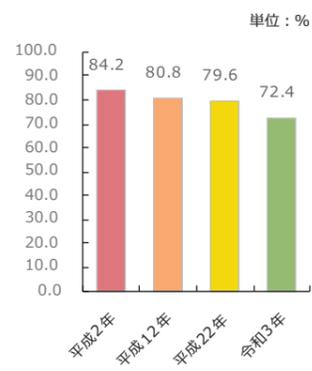


資料：第3～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図3 平日の生成原単位の推移（平成2年～令和3年）

● また、外出率についても同様に、平成2年から減少傾向が続いており、令和3年は平成22年に比べて約7ポイント減少しています。

● これは高齢化の影響に加え、令和3年は新型コロナウイルス感染拡大による外出自粛の影響も考えられ、近畿圏でも同様の傾向を示しています。

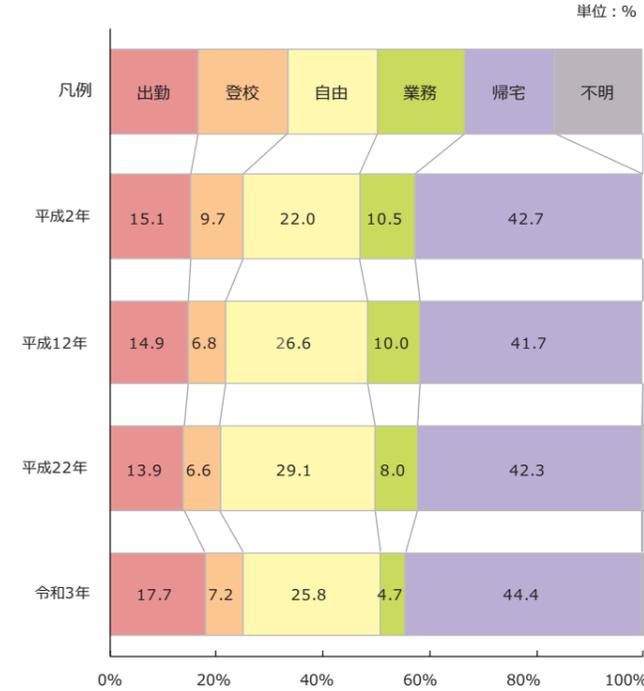


資料：第3～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図4 平日の外出率の推移（平成2年～令和3年）

2 平日トリップの目的構成比の推移

● 平成2年から令和3年にかけて業務目的の割合の減少傾向が続いています。
● 令和3年は、平成22年まで減少していた出勤、登校目的の割合が増加し、増加していた自由目的の割合が減少しています。

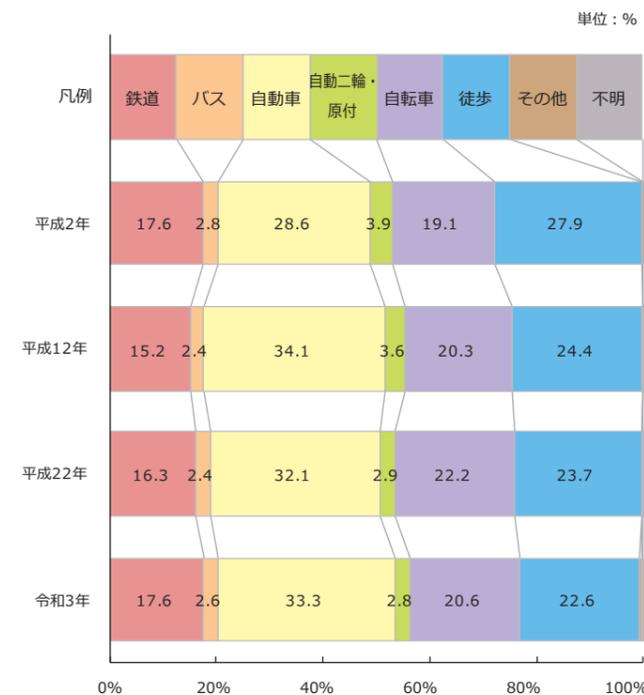


資料：第3～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図5 平日トリップの目的構成比の推移（平成2年～令和3年）

3 平日トリップの代表交通手段構成比の推移

● 平成22年から令和3年にかけては大きな変化はみられないものの、鉄道と自動車がわずかに増加しています。
● 徒歩は、平成12年から令和3年にかけてわずかな減少傾向にあり、令和3年は平成22年から約1ポイント減少しています。



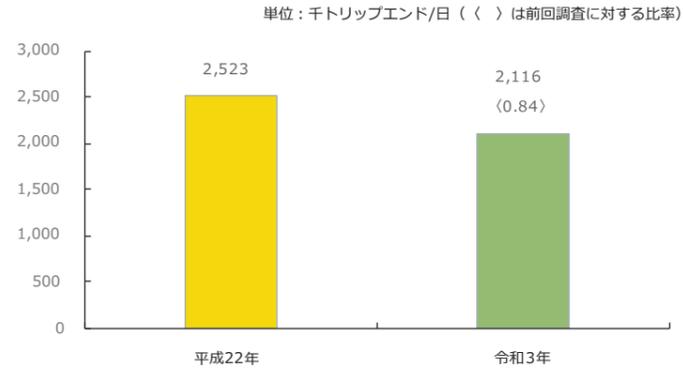
資料：第3～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図6 平日トリップの代表交通手段構成比の推移（平成2年～令和3年）

■ 堺市の人の動き (2/2)

4 休日の総トリップ数と1人当たりトリップ数の推移

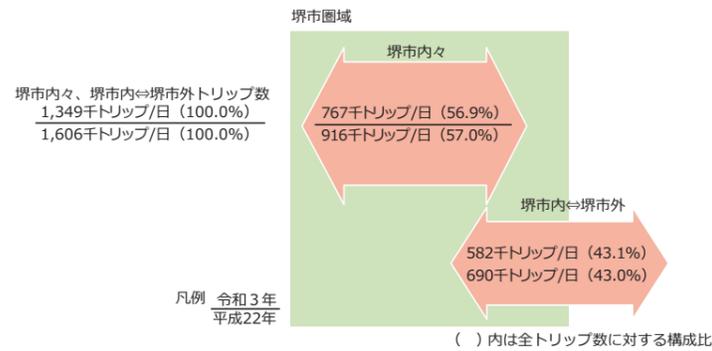
● 堺市の休日の総トリップ数（発生集中量）については、令和3年は平成22年と比べて、約16%減少しています。



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図7 休日の発生集中量の推移（平成22年～令和3年）

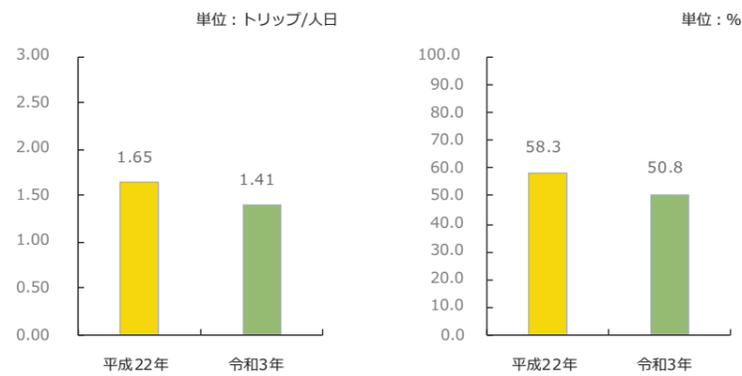
● 令和3年において、堺市を出発地あるいは到着地とするトリップは1,349千トリップ/日で、そのうちの約57%にあたる767千トリップ/日は出発地・到着地ともに堺市内です。



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図8 休日に堺市を発着する人の動き（平成22年～令和3年）

● 令和3年において、堺市に居住する人の休日1日あたりのトリップ数（生成原単位）は1.41トリップ/人日であり、平成22年から減少しています。



資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図9 休日の生成原単位の推移（平成22年～令和3年）

資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図10 休日の外出率の推移（平成22年～令和3年）

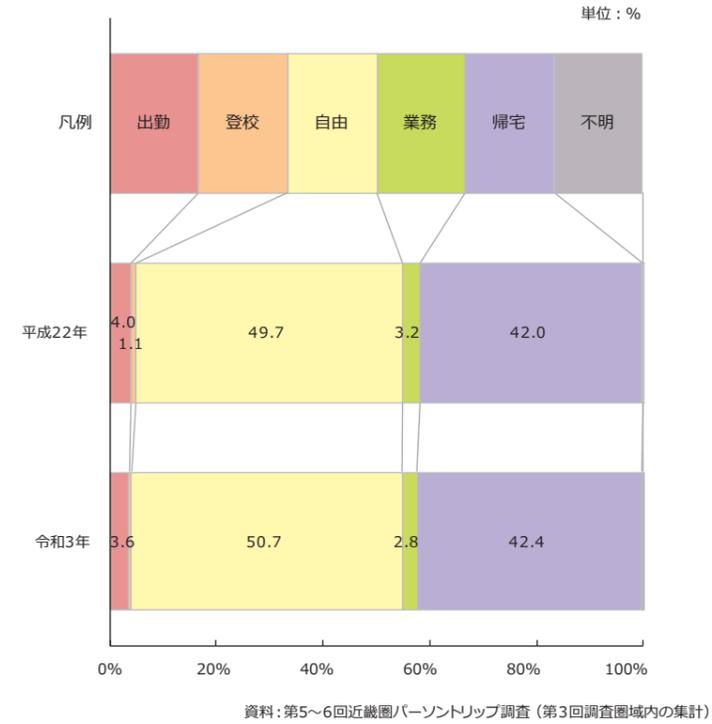
● また、外出率についても同様に、平成22年から令和3年にかけて減少しています。

● 生成原単位・外出率ともに、平日と比較して休日の方が小さく（低く）なっています。

5 休日トリップの目的構成比の推移

● 平成22年から令和3年にかけて大きな変化はみられません。

● 平日トリップの目的構成比と比較すると、休日では出勤、登校、業務目的がほとんどなく、自由目的が50%以上を占めています。



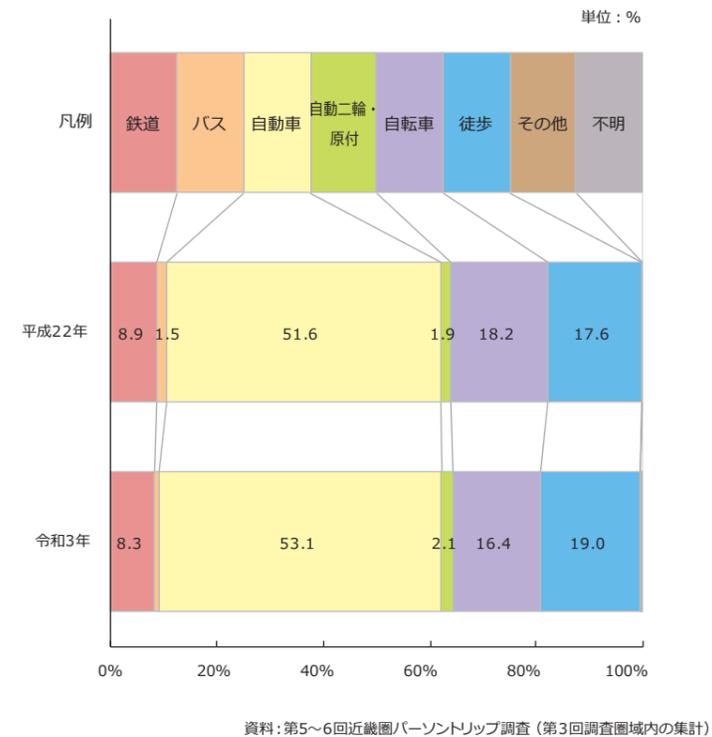
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図11 休日トリップの目的構成比の推移（平成22年～令和3年）

6 休日トリップの代表交通手段構成比の推移

● 平成22年から令和3年にかけて自動車、自転車、徒歩でわずかな増減はありますが、大きな変化はみられません。

● 平日トリップの代表交通手段構成比と比較すると、休日は平日に比べ、鉄道の割合は約半分に、自動車の割合は約20ポイント大きくなっています。



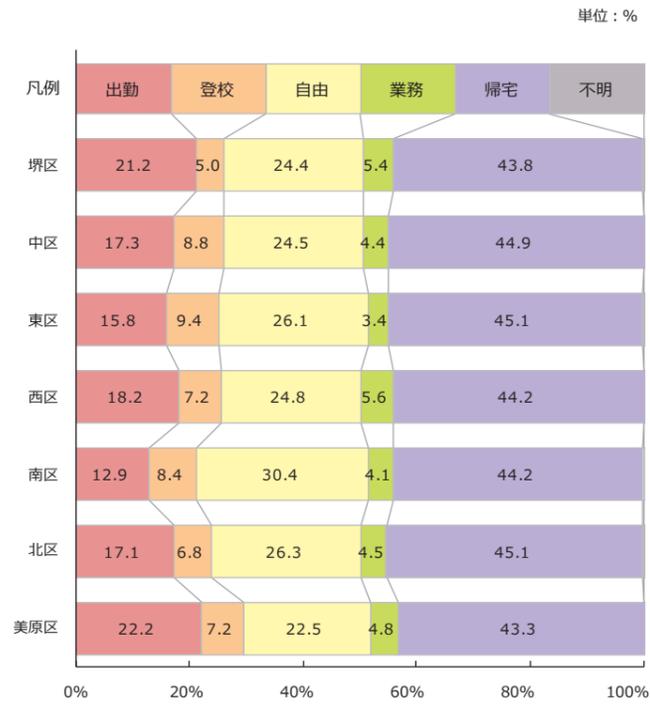
資料：第5～6回近畿圏パーソントリップ調査（第3回調査圏内の集計）

図12 休日トリップの代表交通手段構成比の推移（平成22年～令和3年）

地域の人動き

1 区別にみた平日トリップの目的構成比

- 堺区と美原区では出勤目的が約21%～22%と他の区に比べて高くなっています。一方、南区は約13%と市内で最も低くなっています。
- 市街地である堺区においては、登校目的の割合が他区に比べ低くなっています。
- 自由目的では、南区のみ30%を上回っています。

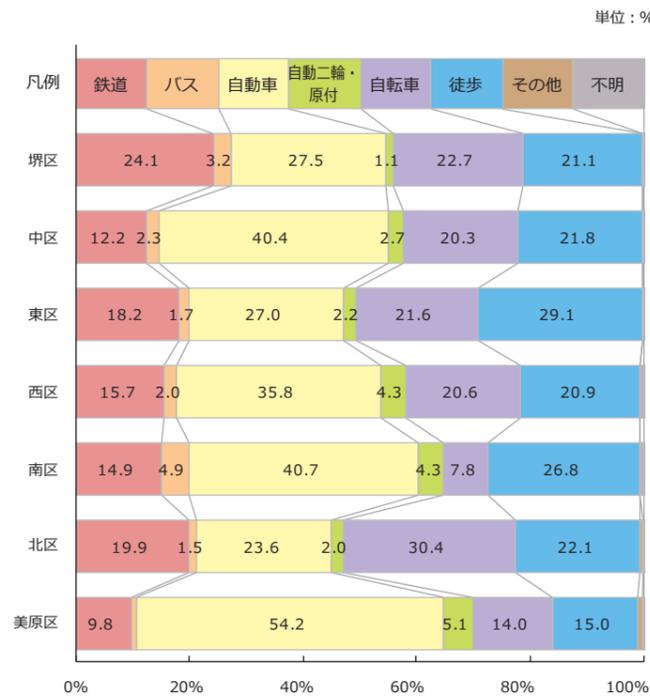


資料：第6回近畿圏パーソントリップ調査（第6回調査圏内の集計）

図13 平日トリップの区別目的構成比（令和3年）

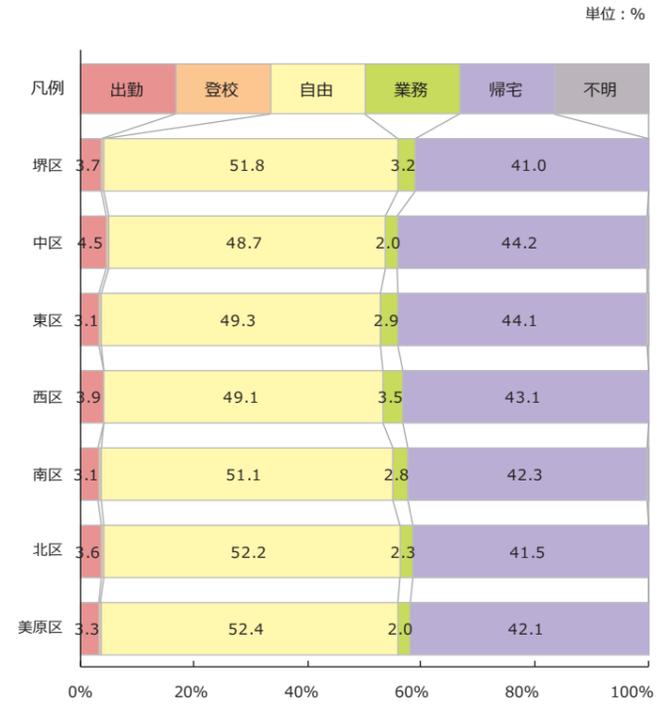
2 区別にみた平日トリップの代表交通手段構成比

- 堺区、北区、東区で鉄道の割合が高く、特に堺区では約24%を占めています。
- 自動車の割合は、美原区、南区、中区で高くなっており、特に美原区では半数以上が自動車トリップです。
- 自転車の割合は、北区で30%を超えるほか20%以上の区が多い中で、南区だけは10%を下回る約8%です。



資料：第6回近畿圏パーソントリップ調査（第6回調査圏内の集計）

図14 平日トリップの区別代表交通手段構成比（令和3年）



資料：第6回近畿圏パーソントリップ調査（第6回調査圏内の集計）

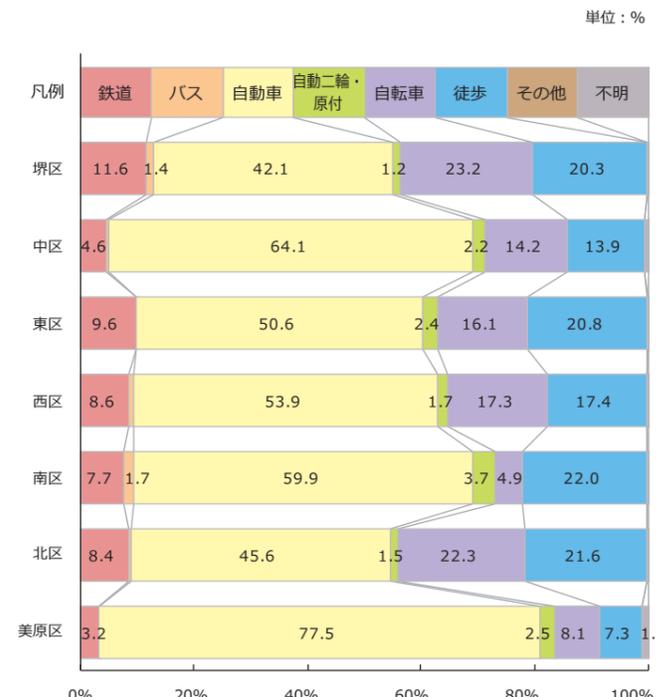
図15 休日トリップの区別目的構成比（令和3年）

3 区別にみた休日トリップの目的構成比

- いずれの区においても自由トリップの割合が50%前後です。

4 区別にみた休日トリップの代表交通手段構成比

- すべての区において平日と比べて自動車の割合が高く、他の交通手段の割合が低くなっています。
- 堺区と北区以外は自動車トリップが50%を上回っており、特に美原区では自動車の割合が約78%です。



資料：第6回近畿圏パーソントリップ調査（第6回調査圏内の集計）

図16 休日トリップの区別代表交通手段構成比（令和3年）